



令和6年2月22日
第6号
南大沢中学校

明日の自分を作るのは自分

校長 荻原 隆行

3学期始業式で、「1月行く、2月逃げる、3月去る」という話をし、3学期はあっという間に過ぎていくので一日一日を大切に過ごしてくださいと伝えました。すでに2月が逃げようとしている今日です。

さて、3年生の受験もピークを過ぎ、昨日都立高校の学力検査(一次募集)がありました。3月1日に発表となりますが、その日に全員の進路が決まることを祈るばかりです。1、2年生は2月15日16日にスキー移動教室へ行ってきました。この冬は暖冬と言われていましてので積雪の量を心配しましたが、人工降雪機を使っていることや直前の週に大雪(東京にも積雪があった日)が降ったこともあり、思ったより良いコンディションで滑ることができました。1年生から3年生まで、どの学年も大きな目標があった2月ですが、きっと一人ひとりがその目標に向けて、自分にできる最大の努力や取組をしたのではないのでしょうか。そして、その結果が良かったもの、成功したのもあれば、悪かったり失敗したりしてしまったこともあるでしょう。良かったこと、成功したことは今後もその取組を継続させ、ダメだったことは反省して改善策を講じてほしいと思います。大事なことは挫けて止まらないこと、ゆっくりでいいから前に進むことです。人生はいろいろあるのが当たり前ですから。

ところで、Mrs. GREEN APPLEの「僕のこと」という曲があります。私が大好きな曲の一つなのですが、歌詞の一部を紹介させていただきます。

努力も孤独も報われないことがある けどね それでもね 今日まで歩いてきた日々を
人は呼ぶ それがね 軌跡だと
ああ なんて素敵な日だ 幸せに悩める今日も ボロボロになれている今日も
ああ 息をしてもがいている 全て僕のこと あの日の僕らのこと・・・

辛いことや苦しいことは、誰でも嫌だし、避けたい、逃げ出したいと思います。しかし、長い人生で毎回逃げ出していたらきりがありません。明日の自分を作っていくのは、今日の自分の経験や思いです。成功や失敗、喜び、悲しみなど今日のすべてが糧となり肥やしとなっているのです。そして、歌詞にあるように、「幸せに悩める今日も ボロボロになれている今日も」、後で振り返れば、「ああ なんて素敵な日だ」となってくれることでしょう。そのためにも今日を大事に生きてほしいと思っています。

3年生は中学校生活も残り1か月を切りました。まだ進路先が決まらず、合格発表をドキドキしながら待っている人もいるでしょう。緊張や不安が募っている人もいることでしょう。そんな状況ではなかなか考えられないと思いますが、合否や決定進路先がどうなったかに関係なく、この辛く苦しい中を進んできた数か月のことを人生の大きな糧にしてくれたらと願うばかりです。そしていつの日か自分自身を振り返った時に、苦しい時を越えてきた自分をほめ、その自分を好きであってほしいです。そのうえで、「ああ、なんて素敵な日だった」と実感できたら最高ではないでしょうか。



学校の様子



始業式



おはようコミュニケーションと生徒会による能登半島地震募金活動
※ご家庭からの募金や、地域の方の協力もあり、39050円集まりました！



プログラミング教育出前授業（2年）



保健委員会による花壇整備



台中日本人学校とオンライン交流授業（2年）



スキー教室①（1・2年）



スキー教室②（1・2年）



スキー教室③（1・2年）

お知らせ

○先日文書でお知らせした通り、下の通り1・2学年対象「中学校英語スピーキングテスト ESAT-J YEAR 1 及び ESAT-J YEAR 2」を実施します。クラスごとに集合・終了時間が違いますので、ご確認のほどお願いいたします。

実施日時 令和6年3月9日（土）

1-1 9:30 集合 試験時間 9:50～10:40

2-1 10:30 集合 試験時間 10:50～11:40

2-2 11:30 集合 試験時間 11:50～12:40

※試験終了後、下校します。

場所 南大沢中学校



令和5年度 八王子市立南大沢中学校の学校評価(自己評価)について

1 教育目標

・よく学び、創造する生徒 ・進んで協力し、思いやりのある生徒 ・健康で、逞しい生徒

2 めざす学校 ・「明日も行きたくなる居心地の良い学校」

- ①確かな学力を身に付ける。
- ②自らの将来に向けて希望をもって卒業する。
- ③基本的な生活習慣を身に付ける。
- ④人権が守られ安心して学校生活を送ることができる。
- ⑤保護者・地域から信頼される。

3 今年度の基本方針

- ①校内外での研修を通して教員の授業改善を進め、主体的・対話的で深い学びの実現のもと、生徒の学力向上を図る。
- ②新たな不登校を生まない対策と現に不登校(傾向)の生徒への支援の充実を図る。
- ③学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等を推進し、いじめを許さない学校作りを実現する。
- ④柏木小学校及び南大沢小学校との小中一貫教育を充実させるとともに、保護者、地域、関連諸機関との連携を強め、地域の特色を生かした地域教育の推進を図る。

4 具体的な取組

(1)授業(学習)の取組

- ①授業準備を丁寧に行い、授業に取り組む。
- ②1時間の授業目標をしっかりと提示し、最後には振り返りを行うことでその時間の内容の定着を図る。
- ③授業・学習活動は、ICTを積極的に活用し、生徒自身が、考えたり、調べたり、比較したり、議論したりするなど、生徒が活動する場面を取り入れる。
- ④生徒・保護者に信頼される評価・評定を行う。
- ⑤朝読書を継続して行い、落ち着いた1日のスタートを切らせる。
- ⑥放課後や長期休業中に補習授業を行い、学習内容の習得が不十分な生徒の支援を行う。
- ⑦学校サポーターや学生インターンシップなど支援を受け、個別指導を充実させる。
- ⑧通常学級と特別支援教室の連携を強め、特別支援教育の視点から一人一人の特性に応じた学習指導を行う。
- ⑨生涯に渡りスポーツに親しめるよう興味・関心を高め、基礎体力や運動能力の向上を図る。

(2)学校生活の取組

- ①落ち着いた教室環境をつくり、学級全体が、自学・自習・読書をする雰囲気や習慣をつくる。
- ②校内全体で「あいさつ」を心掛け、気持ちよくあいさつする習慣をつくる。
- ③話し手を見て、話を静かにしっかり聞く習慣をつくる。
- ④場に応じた正しい言葉遣いができる習慣を身につける。
- ⑤朝礼・学年集会の時に、静かに移動し自分たちで整列ができる生徒を育てる。
- ⑥友達や大人の話聞き、正しい行動ができる生徒を育てる。

(3)不登校・いじめに関する取組

- ①いじめに関する調査を毎学期行うとともに、子ども見守りシートの活用と教員による生徒の常時観察、週に1度の学校いじめ対策委員会開催によりいじめを見逃さない環境づくりを行う。
- ②いじめ予防の観点から朝礼、道徳授業、行事やその他の活動等、あらゆる場面で自尊感情・自己肯定感を高め、思いやりの心を培う指導や講話を適宜実施する。
- ③1学期に「いのちの大切さを共に考える週間」を実施、すべての教科でいのちの大切さについて触れる授業を行う。

- ④全学年で Q—U 調査を実施、生徒全員の個性や悩みを把握、不登校の未然防止や早期解決を図る。
- ⑤支援教室(フォレストルーム)を設置して、教室に入れない生徒が利用できる居場所づくりを行う。
- ⑥S カウンセラー、S ソーシャルワーカー、子ども家庭支援センターと連携し、不登校生徒が抱える問題解決を図る。

(4)小中一貫教育、地域連携の取組

- ①小中一貫教育の日を学期に1回設け、授業交流を行うとともに、互いの児童・生徒の様子を確認し、9年間で育成する児童・生徒像について理解を深める。
- ②小中の児童・生徒が合同で行う活動を複数実施する。
- ③9年間を見通した家庭学習の充実のため、タブレット端末を利用したドリル型学習コンテンツ等の活用を共有する。
- ④PTA 活動や地域活動に積極的に参加する教員・生徒を増やすとともに、地域人材を活用した取組を実施する。

★今年度を振り返って(自己評価より)

(1)授業(学習)の取組について(特別支援教育を含む)

生徒の学校評価では94.2%の生徒が、先生たちが授業を工夫して行っていると感じ、教員の自己評価では授業改善・充実を図り、分かる授業を構築し、生徒に達成感をもたせられたと感じているが81.8%である。ほとんどの生徒が授業に落ち着いて取り組んでいるが、生徒にとって主体的な学習になっているかといえは不十分に感じている教員が多い。「主体的・対話的で深い学び」になるよう、教員側の授業改善をさらにすすめていく。また、個別支援が必要な生徒に対しては、特別支援対策委員会で協議し、学校サポーターによる支援やみなさわ教室との連携などを行っていく。

(2)学校生活の取組について

生徒の学校評価では学校の目標やきまりを守っていると自覚している生徒が89.4%で昨年度93%より若干下がっている。そのことに対する教員の指導が不足していると感じている生徒が6.5%おり、教員側でも20%がそう感じている。次年度の課題として、全教員で足並みをそろえた生徒指導を行っていくようにしたい。

(3)不登校・いじめに関する取組について(人権教育、命の教育を含む)

取組はすべて行っている。フォレストルームに通えた生徒は進路もいち早く決定するなど、その効果は居場所づくりにとどまらず、高いものがあった。次年度も継続する。いじめは完全に0にはできなかったが、取組により抑止効果や早期発見・対応の成果があった。いじめ対策に対する好評価は、生徒は87.7%、教員が95%である。また、友達に優しく接し、大切にしていると答えた生徒は91%で、自分で判断できないが7%ほどおり、ほぼ全生徒がいじめに気を付けているといえる。その反面、実際にはいじめと思われる言動が絶えないのは、その行為がいじめになっていると気付かない生徒がいることが原因と思われるので、今後も多くの教育場面で人権教育、いじめ防止教育を推進していく。

(4)小中一貫教育(南大沢中、南大沢小、柏木小)、地域連携の取組について

今年度は3校での生徒児童交流が進められた。部活動体験や生徒による走法指導のほかに、授業見学を体験授業に変更し、本校生徒も授業にアシスタントとして参加し、交流を深められた。次年度は中学生による児童の学習支援も計画中である。生徒の好評価73.7%で不明が22%となっており、次年度さらに交流を深めながら、関わる生徒を増やしていくことが重要である。教員はほぼ全員が小中一貫教育・地域連携に前向きに取り組んでいる。

(5)その他

キャリア教育については、生徒が目標や将来の職業を考えて学習しているが72%から76.2%に増加しており、教育効果が出たといえる。教員は90%が好評価。次年度はさらに職場体験を2年生で実施する。安全管理については、生徒の93.3%、教員の90%が好評価であるが、さらに緊張感のある訓練などを次年度は実施していきたい。